



第2回 こあじろの森くらぶ 総会



2017年8月27日(日)、「小網代の森を守る会」から「小網代の森と干潟を守る会」を経て、「こあじろの森くらぶ」となり、第2回の総会が行われました。会場外のホールに加藤利彦さん撮影の小網代写真を掲示し、他会場を使用される方々にも、小網代の美しい風景を見ていただきました。会場内には交流会の度に撮影し続けた記念写真と植物画の絵はがきを飾り付け、祖父川精治さんのコンテスト入賞写真が花を添えてくださいました。

開会挨拶の高橋伸和さんが急用で他出というハプニングもありましたが、原稿を別府史朗さんが代読し無事開会。加藤利彦議長の熟練した進行で、全ての議事が速やかに原案通り可決されました。

終了後、参加者全員の自己紹介が行われ、終始和気あいあいとした雰囲気の第2回総会でした。

会場を片付けて、バスで小網代の森へ向かいます。悪天候の続いていた数日前までとひきかえ、願っても無いような散策日和の中をゆっくりと森歩きしました。行く度に異なる顔を見せてくれる小網代の森ですが、今回も色々な発見がありました。それについては10～11ページに宮本美織さんがまとめてくださいましたのでご参照ください。

(橋 美千代)

開会のご挨拶

天候のダイナミックさを感じる今日このごろです。小網代の森の環境も、私たちの会もリフレッシュして一層新しい楽しみ方が出来るようになりました。具体的には活動報告などから感じて頂けることと思います。

森は木道が整備されたおかげで、上流部から河口の干潟まで短時間で歩ける様になりました。地面を歩ける所が少なくなって、物足りなく感じる方もいるかもしれませんが、何度歩いても毎回何か面白いものに会える魅力は変わりません。また、同じ歩き方ができることで定点観測的な視点から季節の移り変わりや、一日の内でも森の上り下りで見え方がかわる楽しさを感じてください。

天気の悪い日も歩きやすいので、是非雨の日の森も体験してください。ゆっくり歩く程にいろいろな楽しみ方が見えてきます。

生物多様性の前に環境の多様性がもっと大事なことは自明なことです。この会も森の中はもちろん、外へ出ての活動も充実しています。いろいろな所へ出かけて、目からうろこを落とす機会をたくさん持って活動をしていきたいと思います。新しい人とのめぐりあいも期待します。いつまでも若々しい気持ちでいきましょう。

今日は障がい者介護の仕事の都合でみなさんとお会いする機会を失ったことは残念ですが、この文章を書いてみて、自分の気持ちが自分で良くわかった気がします。今日の総会と森歩きを楽しまれることを期待します。

(記:高橋伸和 代読:別府史朗)

総会議案書

日 時 2017 年 8 月 27 日（日）13 時半から 14 時
 場 所 三浦市南下浦市民センター 2F 研修室
 全体司会 鈴木カヲル
 開会挨拶 高橋伸和 代読 別府史朗
 議長選出 加藤利彦
 資格確認 松原あかね

議 事

第 1 号議案 2016 年度活動報告案
 第 2 号議案 2016 年度決算報告案並びに会計監査報告
 第 3 号議案 2017 年度活動計画案
 第 4 号議案 2017 年度予算案
 第 5 号議案 スタッフ案
 第 6 号議案 その他
 議 案 審 議 質疑応答 採決 議長解任

参加者自己紹介、閉会、これからの予定案内
 森歩き参加者は 14 時 39 分のバスで小網代の森へ

第 1 号議案 2016 年度活動報告

2016.07.10(日) スタッフ会議(於横須賀市立 市民活動サポートセンター)総会準備他
 2016.07.24(日) スタッフ会議 総会準備他
 通信第 3 号印刷・発送
 2016.08.14(日) スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 総会準備・当日展示物制作
 2016.08.28(日) 第 1 回こあじろの森くらぶ総会
 2016.09.01(木) 横須賀市立 市民活動サポートセンター野内真理子さん植物画展 設営
 2016.09.11(日) スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 2016.09.14(水) 横須賀市立 市民活動サポートセンター野内真理子さん植物画展 撤収
 2016.09.25(日) スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 通信第 4 号印刷・発送
 2016.10.09(日) 交流会下見 三崎口駅前集合
 2016.10.23(日) 第 4 回交流会「一句ひねろか絵手紙描こか、なんでもかんでも虫眼鏡」10:00 三崎口
 駅前集合
 2016.11.13(日) スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 2016.11.27(日) スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 通信第 5 号印刷・発送
 2017.01.11(水) 交流会下見 三崎口駅前集合
 2017.01.29(日) スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 2017.02.05(日) 第 5 回交流会「海の鳥、森の鳥、なんちゃって…ちゃんとした鳥見会」
 10:00 三崎口駅前 (朝早組)8:00 水道広場
 スタッフ会議
 2017.02.12(日) スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)

2017.02.26(日)	天神島プチ遠足下見
2017.03.12(日)	スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
2017.03.26(日)	スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
	通信第6号印刷・発送
2017.04.02(日)	水辺公園遠足 午後交流会下見
2017.04.18(火)	野内眞理子さん植物画展、搬入・設営 三浦市勤労市民センター
2017.04.22(土)	交流会下見
	スタッフミーティング 南下浦市民センター集会室(額縁作成)
2017.04.29(土・祝)	第6回交流会
	「小網代の春を探す！ 聞いて、探して、見つけて、絵手紙も描きましょう」 10:00 三崎口駅前
	終了後野内眞理子さん植物画展、撤収 三浦市勤労市民センター
2017.05.14(日)	スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
2017.05.29(月)	スタッフ会議(三浦市南下浦サポートセンター1F 和室)
	ホテル観察会参加
2017.06.04(日)	ホテル観察会参加
2017.06.11(日)	スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター) 総会資料打合せ
2017.06.25(日)	スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
	通信第7号印刷・発送

第2号議案 2016年度決算案

収入の部				支出の部			
科目	16年度決算額	17年度予算案	差異	科目	16年度決算額	17年度予算案	差異
前期繰越金	742,002	742,002	0	通信費	50,000	40,673	9,327
会費収入	85,000	74,000	11,000	交通費	20,000	9,006	10,994
寄付金収入	200,000	216,702	-16,702	事務消耗品費	55,000	44,657	10,343
売り上げ収入	2,000	0	2,000	会議費	40,000	66,965	-26,965
				広報費	20,000	21,388	-1,388
				諸手当	100,000	110,000	-10,000
				次期繰越金	744,002	740,015	3,987
	1,029,002	1,032,704	-3,702		1,029,002	1,032,704	-3,702

繰越金内訳

現金
郵貯銀行当座預金
合計

557,587 (円)
182,428 (円)
740,015 (円)

上記の通り 報告いたします。

2017年8月27日

会計

宮本美織

印

上記の通り 相違ありません。

2017年8月27日

監査

竹内晶子

印



第3号議案 2017年度活動計画

会則の2.目的「本会は小網代の森をたのしむことを通じて、会員の交流をはかる」にそって活動する。

- ・交流会を4から5回開催
- ・会報「こあじろの森くらぶ通信」を4から5回発行
- ・小網代の森の外での勉強会「遠足」にも会員の皆さまをお誘いしていきたい

第4号議案 2017年度予算案

収入の部				支出の部			
科目	16年度決算額	17年度予算案	差異	科目	16年度決算額	17年度予算案	差異
前期繰越金	742,002	740,015	1,987	通信費	40,673	50,000	-9,327
会費収入	74,000	74,000	0	交通費	9,006	10,000	-994
寄付金収入	216,702	216,700	2	事務消耗品費	44,657	25,000	19,657
				会議費	66,965	60,000	6,965
				広報費	21,388	20,000	1,388
				諸手当	110,000	130,000	-20,000
				次期繰越金	740,015	735,715	4,300
	1,032,704	1,030,715	1,989		1,032,704	1,030,715	1,989

第5号議案 スタッフ案

※代表をおかず、スタッフ会議の多数決により運営する。

菅野哲生 木皿直規 倉内ちひろ 鈴木カヲル 須藤伸三 祖父川精治 高橋伸和 中井由実 仲澤イネ子
浪本晴美 橋美千代 別府史朗 松原あかね 宮本美織 山本述子(15名五十音順)

会計監査 竹内晶子

第6号議案 その他

案件はありませんでした



●●● 総会にコメントを寄せていただきました ●●●

いつもニュースを有難うございます。 N.M 様

森くらぶの活動 ご苦労様です。 T.S 様

楽しいお便りをありがとうございます。植物も虫も鳥も色々の種類が見つまっているんですね、一度ゆっくり歩きたいと思いつつ……。 S.O 様

協力ができていませんが、応援しています。 N.O 様

昨秋、〇十年ぶりに森へ行かせて頂き、歩道が整備され、小川が流れ、ひろ場も出来ていて、驚きました。何より自然を大切に守って活動してこられた皆さまに敬意を表します。カラスザンショウ、クサギの印象が深く残っています。

ありがとうございました。 H.H 様

4.29 小網代参加できてよかったです。息子が小学生の時初めて訪れた小網代の感動、おぼえています。これからも森くらぶ元気で続け森を見守って下さい。 K.K 様

こあじろの森くらぶ通信、いつも精読して居ります。みなさまの御健康をお祈りして居ります。 Y.O 様

今後ともよろしく願いいたします。なかなか小網代にゆけずすみません。 S.T 様

5月28日、小網代の森のホタルを見ました。素晴らしい会の運動の力、成果を感じました。 N.K 様

近くに住んでいながら、森に行くことでできずにいましたが、今年は近所の方々と行って来ました。とても整備されましたね。 A.S 様

長い間お世話になりました。私、昨年10月より体調を崩し郷里の新潟に転居しましたので、通えないこともあり、退会させていただきます。今までありがとうございました。 H.M 様

足を悪くして参加できずすみません。こあじろの森くらぶ通信を楽しみにしています。 K.T 様

今日までの歩みを思い、ここまでのスタッフ皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。 K.T 様 T.T 様

地道な活動ですが、継続し次代の子供達にも森の良さが伝えられると素敵です。 N.Y 様

お世話になります。よろしくお願いします。 M.K 様

暑い夏になると、爽やかな小網代の森とアカテガニを思い出します。総会の御盛会をお祈りします。 K.E 様

休日は母の介護があり、なかなか観察会等出かけられず残念です。通信を読ませていただき、森の景色を思い描いて楽しませていただいています。 K.S 様

■ サロン小網代 H.M さんのホタルのイラストを M.M さんが陶芸で再現しました



この作品は

10月16日から10月23日まで
工房Gの展示会に出品されます。

場所：横須賀教育会館
(京急県立大学前下車 10 分)

随想 小網代でんてん (27)

もういちど会いたい — タمامシ

須田 漢一

姓も名も知らない初対面の人を、かつこよい人だな、きれいな人だな、きつと優しい人だろう、と思う。別れてから、また会ってみたい、とも思う。

が、小説やドラマのような出会いは、ない。その時の強い印象だけが、いつまでも頭の隅に残っているだけだ。宝石虫と呼ばれるタمامシ(ヤマトタマシ)もそうした虫なのか。

タمامシを見たのは、たつた一回きり。20年前の初夏のことだったと思う。

前の年の冬の間に庭のエノキやケヤキの横枝を切つて積んでおいたものを、かたづけしている時、色鮮やかな虫が動いていた。一瞬、ハンミョウか、と思ったが、写真や図鑑で見たタمامシだった。何か、神秘的な、触れてはならない怖れを感じ、あわてて散らばっている枝を被せた。輝く色と、形だけが記憶にとどまった。

もういちど会いたいと願っているのに、それ以来、家のまわりや野山でも、その姿を見ることが

がなかった。トンボやチョウやカブトムシやクワガタ類は、季節ごとに数は少ないが、見ることはあるのに、タمامシには会えなかった。個体数が激減したのか、それとも目に触れにくい所に住処があるからだろうか。

— 過日、横須賀市自然・人文博物館において「宝石虫の輝やき」寺林コレクシヨンのタمامシたち」の特別展が公開された。日本と世界のタمامシの標本の中に、まるで生きているような「ヤマトタمامシ」があつた。体長4センチくらい、舟形の背面は金属光沢のある緑色で、胸と前翅に2本の赤いすじが鮮やかに走っている。見る方向によって、緑色が暗紫色になったり、と色彩が変化する。

なぜだろう、と思い尋ねると、タمامシの色は色素^{しきそ}によつて作られた色ではなく、構造色^{こうぞうしき}といつて、翅は微細なナノ(10億分の1)構造をしていて、いろいろな光を、反射、散乱させる。そのため、見る角度によつて光の波長が異なり、特定の光が重なつて強調される仕組で、年月を経ても色あせることがない、という。ちなみに金属光沢は、カメムシやコガネムシのなかまにも見

られ、翔んでいる時、鳥よけになったり、同じ種を採す目印にもなるらしい。

法隆寺の「玉虫厨子」には4500匹分の翅が敷き詰められていたほど、昔は工芸にも利用されていたタمامシが、なぜ、身のまわりから消えたのだろう。

①居るのに、季節・時刻がマッチングしなかった ②幼虫のえさであるエノキ、ケヤキ、サクラ類が倒される、と地面に置くことなく始末された ③ヒトによる採集……など考えられるが、本当のことはわからない。

大きくは広葉樹の森が、開発の名のもとに破壊されたから、とも思われるし、私たちが生活環境や方法(朽ち木をすぐ処理するなど)を変えてしまったからともいえる。

消えたタمامシは、他のいくつかの生きものと同じように、標本や図鑑の中の生きものになったとしたら、淋しいものだ。



2014 年小網代のタمامシ

サロン小網代 南米アンデスを歩く

1994年5月の紀行

祖父川精治

南米・アンデスは地球の裏側、遙か彼方で遠い。サッカー・ワールドカップで賑わうロスアンゼルスへ飛び、アルゼンチン航空でメキシコ・シテイへ。標高2500メートルの高地にあり、体調によって高山病の兆候が現れる人が出る。エクアドル赤道直下のガラパゴス諸島の上空を飛びやっとペルー首都のリマ(Lima)へ到着。延20時間の空の旅である。



アンデスのリヤマ

Mさんから戴いた、豪華画集ペルーの女の子「ローサのおつかい」アンデスの懐かしい風景が次々と広がっている。女性は分厚い着衣に個性的な帽子(日差しが強いので)を着用。悠々と空飛ぶ最大の鳥コンドル、ラクダ科の仲間で小型なリヤマ、そして屋内では和名テンジクネズミのクイ(食料として飼育)を各所で見ている。「ウシさんこんにちは」、ネパールヒマラヤでは牛の仲間である高所に強い毛の長いヤクを物資運搬に使っている。ところが低所には弱い、そこでヤクとウシを交配させて1代雑種のゾッキョを誕生させ使っていた。

ご本の後書きには、高齢のため先がないので自主出版したとあります。

古代から文明が栄えた遺跡の宝庫である、アンデス山中のインカ帝国首都のクスコ(Cusco)。永い間、南アメリカの大半を強大な勢力で支配していたという。ところが、1500年代に僅か200人のスペイン軍率いるピサロに滅ぼされてしまう。文字は未だ無く数字は縄目を使い、輸送運搬手段は皆ヒトの背であったという。それだけに、アンデス山中の高地で人びとは平和を謳歌していたのである。

ジャガイモの原産地はアンデス、この時のスペイン軍がヨーロッパへ持ち運んだものと伝わる。

港湾の首都リマから、氷雪の6000メートル級アンデスを越え標高3500メートルのクスコへ飛ぶと、大半の人が高山病となる。体調が回復しないからと、最悪の場合はリマへ戻される人達も出る。

アンデス山中といえば、ポスター等でお馴染みの景観である石造の謎の空中都市であるマチュピチュ(Machu Picchu)。世界最大の大河アマゾン川の上流、峻険な山岳地帯に建築され長い間栄えてきたものである。

インカ帝国が滅亡してから400年後の1911年、探検家のアメリカ人ハイラム・ビンガムによって発見された。当時は、積石は崩れ草に覆われ廃墟と化していたという。近くのアマゾン川源流には温泉が湧き、皆水着を着用して入浴を楽しんでいた。

約2000年前に描かれたと伝えられる、有名なナスカ(Nasca)の地上絵を見に飛行機を使いリマから日帰りで往復する。誰が何のために描いたのか、いまだ謎に包まれたパンパといわれる石だらけの乾燥した広大な大地。地面に立って眺めてもなんだか判らない。ただ長く直線的に細く石を取除いた大原野である。代表的なものでは、サル(110m)、クモ(46m)、ハチドリ(96m)、サギ(200m)等々30カ所もある。

約300メートル位の高さから俯瞰しないと地上絵の様子が判らないので、6人乗りのセスナ小型機を利用する。曲芸飛行のように、グルグル飛び回るので皆な飛行機酔いをする難行苦行である。機外へ降りたらまだ体がフラフラである。地上絵の解明や保存に大きく貢献した、ドイツ人のマリア・ライヘ女史が当時はまだご健在で、近くのホテルの一室に長期滞在をして研究調査中であつた。

列車は不確実であるというので、クスコからチチカカ(Titicaca)湖近くのフリアカまで飛行機を利用し、バスで湖近くのプーノへ。ボリビア国境にある、チチカカ湖は4000メートルの高地にあり琵琶湖の12倍。周辺は樹木が生えず、広大な草原が広がっている。

湖には、葦(トトラ)が群生している。トトラを使って、葦舟や建物を組み立てていた。また、食用にもなるという外側を剥き生で食べている。食べて見ると勧められたが自信はなかった。湖内に浮かぶ島の小学校の校舎、木材が無いので建物は湖中に生い茂るトトラを束ねて校舎としていた。

宿泊した湖畔のホテル、室内の階段の上り下りにも高山病の兆候が現れて足元がフラックで転倒しないよう注意をする。夜半、屋外へ出ると満天の星空、遙か南を望むと南十字星と偽南十字星。今は、遠く離れた南半球に立っているのだなと実感する。小網代では、南の低い夏の夜空に赤い星であるサソリ座のアンタレスを見ている。

ペルーでは、コカインのお茶を飲む習慣がある。マテ茶とかコカ茶といって乾燥したコカインの葉に熱湯を注ぎ、砂糖を入れて愛飲する。高山病に利くという。国外への持ち出しは厳禁である。



チチカカ湖上、小学校トトラ(葦)の校舎

三浦半島の植物

「盗人萩」 こんな可愛らしい花にどうしてこの名前がついたのかしらと思っているのは私だけでしょうか。知らないうちに人の服や身体にひっついてくる、その実のカタチが盗人の足跡に似ているからという説があるそうです。ずいぶんと即物的な命名で、ちょっと可哀そう。

良く見てみればとても美しい、見れば見るほど美しい花です。草深い庵に人知れず住まう佳人、源氏物語の中に登場する姫君みたいです。もし紫式部が名付けたなら、どんな名前になったでしょうか。

ヌスビトハギ 2010 年 10 月



初秋の秋の森を歩いた
夏中 宴を繰り返していた植物たちが
半ばくたびれ
もじゃもじゃと立っているから
何が生えていたのか、よく分からない
森を出てから分かる
ヌスビトハギもあつたことが

画 野内眞理子
詩 中井由実

今日の小網代 2017/9/10

ちょっと夏の疲れが出たかなという感じの森でしたが、クロコノマチョウの蛹に出会え、ラッキー！まさにできたばかりといった感の、みずみずしい透き通った緑の蛹。黒い角頭の幼虫の抜け殻がくっついていました。蛹になる時に脱ぐんですね。 H.N

小網代を詩う

小網代 出前

中井 由実

イギリス海岸で

足元の潮溜まりを観察する人たちの写真

森の入り口で

コナラの大木を背景にした写真

柳テラスで

広場のステップに水彩画を並べた写真

皆 笑顔

いつもの人々の表情が並ぶ

反対側の壁には

色鮮やかなボタニカルアート

花びらから実から根っこまで

三浦海岸駅からすぐの

小さな会議室

緑の匂いも

谷の道に揺れる木漏れ日も

鳥の声を寄せてくれる風も

みんな一緒に持ち込んで

今日は

森くらぶの総会開催



We, not I

中井 由実

一度だけ詩の教室に通ったことがある
ちぎったノートに書いた私の詩を「作品」と呼ばれる経験は
わくわくするものだった

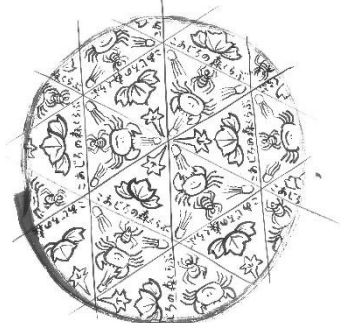
ある時、私の小網代の詩を見て
先生が首をかしげた

——— 詩は自分自身の心から出るものだから
主語は、「私達」でなく「私」で書きなさい ———

確かに他の生徒さん達の主語は、「私」だった

小網代で見たもの、聞いたもの、感じたもの
嬉しいも、がっかりも、感動も驚きも
全部私は「私達」で書いていた
小網代で私はいつも、仲間と一緒に私達
一人で森に立っていても
その時心に映った色や形や匂いを、私は「We」で書きはじめる

We love , , , , ,



こあじろ あ・ら・か・る・と

森を巡る逸話を不定期で 宮本美織 記

2017年8月27日、第2回の総会を終えてほっとした心もちで、仲間と森を歩いた。仲間と気になったこと、3点について、調べてみたので書いてみることに・・・。

A

真ん中広場へ行く途中のハンノキが生えていて、薄暗く感じるあたりに生えていたカラスウリ。その茎が変な曲線を描いたまま垂れ下がっている。何これ？きっとチュウエイよ。と答えたのだが、果たしてあっているのか。少し、御免なさいして、膨れている所を割ってみたら何やら白く、小さい、細い動くものが。ネット検索の結果報告。名前はカラスウリクキフクレフシ、漢字では烏瓜茎膨付子とか。名前の通りでお見事！成虫はウリウロコタマバエというか細いハエの仲間になるそうだ。

B

ヤナギテラスの手前、右側のアシの葉の間に紡錘形の白い糸で絡めて作ったような卵のうが揺れている。何年か前にもこの付近でみた卵のうだ。以前に高橋別荘の前のアイアシの葉の近くでもよく見たものだ。卵のうの近くのアシの葉裏にはメスのオオトリノフンダマシがぬらぬらしたハート型の体に左右に薄茶色の目玉模様、円状紋というそうだが、じっと動かずにいる。彼女は夜行性なのだ。

この他にも小網代の森にはトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、クロトリノフンダマシと日本にいる4種類のトリノフンダマシが揃っている。それを調べて筆者に教えてくれたのは横浜生まれ、

今から10年前に67歳で亡くなった故斉藤慎一郎さんだ。1994年に慶応大学日吉紀要の小網代の生物相(中間報告)の記載されているクモ類39種は斉藤慎一郎さんの仕事だった。先生にくっついていろいろ教えていただき、筆者は紀要に報告をただけの役割だった。クモ合戦などクモにまつわる文化に興味を示されていた。その後、奥さんについて、イギリスへ行き、現地の自然の有様を葉書にしていた思い出がある。そこではイギリス出版物の翻訳もされていたようだ。奥様の仕事で福井県に住み、敦賀市の中池見湿地



※実際には卵のうは母グモの3~4倍の大きさです。

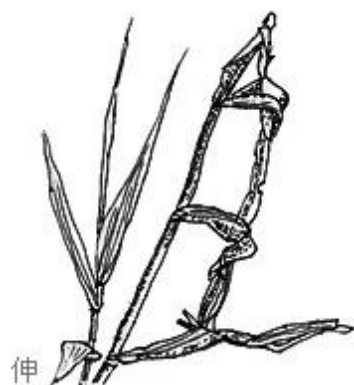
の学術調査報告書(1998年)「中池見湿地のハエトリグモ相(クモ目ハエトリグモ科)およびマミクロハエトリに関する新知見」と題する論文を著している。中でもマミクロハエトリ雄の世界初の完全飼育に成功したとの記述にはびっくりする。この報告書が筆者の手元にあるのは全国ナショナルトラストの会(現日本ナショナルトラスト協会)が中池見湿地の応援をして、全国大会などで中池見の方々が熱心に保全運動を展開していたからだ。中心的な方とは赤目の里での大会で同室になったこともある。幸いここはラムサール湿地の指定を受け、難しい問題も抱えているそうだが、保全の目途は立っているようだ。この報告書の中に斉藤慎一郎さんの名前を見た筆者はやはりどこに行っても、自分の力を貸すことにやぶさかではない、斉藤さんの大きな心を感じたものでした。

「星雲ミカの小さな冒険」2巻が2011年に刊行されていると知ったので、早速、詩人、童話作家の人の幸せ、自然やその命、永久平和を考え、行動し、形に表した斉藤さんの最後の著作を注文してみようと思う。

C

干潟へ出る途中、びっしりと咲いているシロバナサクラタデの近くに生えているアシの葉が変な形になっているのを見つけた人に昆虫の幼虫が住んでいてね。と聞きかじりの知識を披露したのは良かったのだが、もっときちんと説明しなくてはと家にある県立自然保護センター報告第10号(平成5年)の川村優子さんの「ヨシの葉に見られる草梯子構造とこれに関わる虫たちについての観察」を開いてみた。これをお借りして簡単に説明してみたい。

自然保護センターのヨシハラでは毎年8月から9月中旬のアシの花穂が揃うまでに次々にできるそうだ。地方によりキツネムスビ、ムスビアシなどと呼ばれていると。

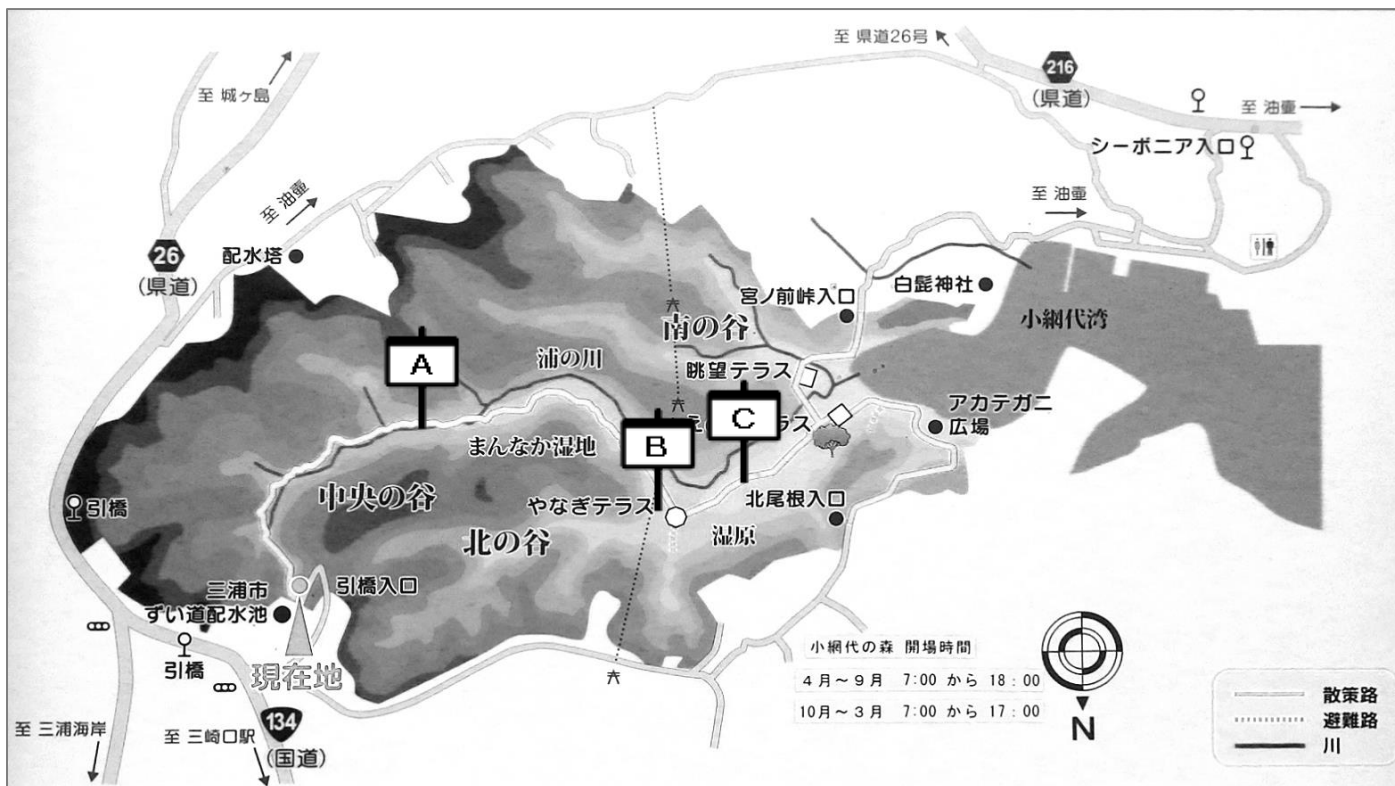


観察によると

- ①タデシマノメイガの幼虫が先端の葉3、4枚を縦に筒状に綴りあわせ隠れ家兼食用として直立巣をつくる。
- ②ヨシが生長して、葉と葉の間が伸びてきて解けるのだが何度も巣のくくりを内側からも外側からも修理する。
- ③さらにヨシが生長するが先端部分綴られたままで、葉の基部が一層成長するので、すぐ下の葉の先端に引っ張られる形になり、1段、2段と草梯子が形成される。
- ④その後、花穂がでるまでヨシは成長し多いもので12段、少なくとも4段の梯子が形成される。5段の梯子には13枚の葉が使われていた。

つまり、ヨシの草梯子はタデシマノメイガの幼虫が、これからまだ成長する葉を綴りあわせて筒状の直立巣をつくり、よれがヨシの成長に伴い機械的に梯子状を呈していくものであると判明した。 以上川村さんに感謝！

観察ポイント



この地図は引橋入口に立つ県の看板を写真に撮らせていただきました。

こあじろの森くらぶ NEWS

◆スタッフの活動

- 2017.07.09(日) 10:00～ スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2017.07.24(月) 13:30～ スタッフ会議
(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2017.08.07(月) 13:30～ スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2017.08.27(日) こあじろの森くらぶ 第2回総会 終了後森を散策
- 2017.09.10(日) スタッフミーティング(横須賀市立 市民活動サポートセンター)

●●● 野内真理子さん 植物画展のお知らせ ●●●

- 期 間 :2018年1月10日(水)～15日(月)
- 会 場 :逗子文化プラザホール
- 時間・休館日 :9:00～22:00 期間中休館日はありません

●●●● ご寄付ありがとうございます ●●●●

石川登美子様 蛭名喜代作様 大川須美様 大高義彦様 大塚敏様 奥津信子様 小田島一生様
 柿島京子様 倉内太輝様 倉内ちひろ様 塩入一弥様 柴内朱美様 嶋津誠様 鈴木慶子様
 鈴木久夫様 須田漢一様 高橋伸和様 高間玖爾美様 高間玲江様 中井由実様
 中野晴清様 浪本晴美様 西川次代様 野内博様 橋 美千代様 藤崎英輔様 藤野秀代様
 松原あかね様 丸 武志様 三井ヒデ子様 三本保子様 宮下孝一様 宮本美織様
 盛野成信様 盛野雅子様 望月光子様 山本述子様

以上の方にご寄付をいただきました。大切にに使わせていただきます。

●●●● 第8・9回交流会のお知らせ ●●●●

第8回 心ゆくまで小網代の森 植物たちの秋を感じよう！

4月の交流会、8月の散策から大きく模様替え・衣替えした小網代の森の秋。植物好きな皆さまも、それほどではない皆さまも、一緒にじっくり秋の植物をウォッチングしたいと思います。今回も三崎口駅前から引橋までバスを利用して、ゆったり森を楽しみましょう。ご希望の方には、思い出の絵手紙作成も楽しんでいただけます。

開 催 日 : 2017年10月22日(日)

*荒天の場合は中止します

お待ち合わせ : 10:00 三崎口駅前 14:00 頃散会

(※ 以下 持ち物、対象、保険は第8回・9回共通です)

持 ち 物 : お弁当、飲み物

(図鑑や虫めがねなどがあると、より楽しいかも知れません)

対 象 : 「こあじろの森くらぶ」会員とそのご家族、ご友人

* 保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

第9回 小網代の森から諸磯の自然を探訪

夏の間はうるさいほどに背丈を伸ばしていた草たちも、すっかり小さくなった冬枯れの森を散策します。もしかしたら紅葉が見られるかもしれません。森を抜けたら少し足を伸ばして、諸磯へ。小網代とはまた異なる奇景、奇観に富んだ諸磯を歩きます。

開 催 日 : 2017年12月3日(日)

*荒天の場合は中止します

お待ち合わせ : 10:00 三崎口駅前

散 会 : 1次散会・えのきテラス 14:00 頃

2次散会・諸磯 16:00 頃

- 第9回交流会終了後、油壺入口「みつ葉」にて「縁の会(忘年会)」を催します！
 会費 4000 円 参加ご希望の方は、仲澤 046-899-0067 までお申し込みください。
 縁の会のみのご参加も大歓迎です。



こあじろの森くらぶ通信 No.8

2017年9月24日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費: 1000 円 (7月~6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203